

2025 運輸安全マネジメント実施計画書

年度	2025年4月1日～2026年3月31日
	1. 輸送の安全に対する基本的な方針 ＜基本品質方針＞ 「私たちは、健全経営のもと安全綱領に則り、お客さまから信頼される企業として 高品質な商品の提供とサービスレベルの向上及び地球環境の保護に貢献してまいります。」 ＜安全綱領＞ 1. 安全は、輸送業務の最大の使命である。 2. 安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。 3. 確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。 4. 安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。 5. 疑わしいときは、あわてず、自ら考えて、最も安全と認められるみちを採らなければならない。 2. 輸送の安全に関する目標及び達成状況等 (1)交通事故の減少目標 ①車両事故:死亡事故0件、人身事故0件 ②高額損害(100万円以上)車両物損事故0件 ③物損事故 対前年比20%削減 (2)輸送の安全に関する計画、重点施策等 ＜スローガン＞ 私たちは、一人ひとりの意識改革から「安全行動」と「安全マネジメント」の実践により、「究極の安全」を目指します。 (1)一人ひとりの「安全行動」への取組み ①「やればできること」を自らが確実に実行します。 ②「なぜルールがあるのか」「何のためにやるのか」、仕事の本質を理解して行動をします。 ③仕事の本質を理解し、気づきから「うまくいっていること」に着目して、工夫、コツを共有し、事故の未然防止に努めます。 ④発生した事故・事象の教訓を活かし、事故防止対策の行動に移します。 (2)本社・センターと一体となった「安全マネジメント」への取組み ①「やればできること」を確実に実行するため、各箇所の弱点分析による実地訓練を実施します。強化期間中における「やればできること事故」の撲滅に向け、センター安全成績優良表彰制度の加減点、安全パトロール、添乗指導、ドライブレコーダー調査等を行い、強化期間の事故ゼロを目標に取組みます。また、Aドライブレコーダーの活用により安全意識の向上を図ります。 ②安全・品質のコアとなる人財育成に取組み、センター管理者とともに本社とかかわり合いを持ち、しっかり連携・協力できる安全体制を構築します。 ③5つの文化を深度化させ、事故の未然・再発防止を推進します。 ④三現主義(現地・現物・現人)のもと、センターの運行管理者・安全担当者による現場作業確認を強化します。 ⑤グループ会社・協力会社との安全に対する取組みの共有や意見交換により、安全意識の深度化を図ります。 ⑥安全・品質・環境の向上に繋がる車両・マテハン・システム等の導入に取組みます。 【教育及び研修等の充実化】 (1)社外施設での研修 ①自動車安全運転研修(88名) ②省エネ運転研修 (88名) ③運行管理者(補助者)専門研修(32名) ④整備管理者研修(16名) ⑤安全探求研修(15名) ⑥実地訓練研修(32名) (2)社内安全研修 ①初任運転者座学講習(2日間) 選任前運転者を対象に年4回開催 ②自動車安全運転研修(特別編) 事故を起こした運転者を対象に年6回開催 ③フォークリフト研修(作業指揮者、オペレーター)(12名) ④駅構内安全作業教育者研修(34名) ⑤階段昇降機研修(スピージィ、大型)(31名) ⑥台車整備担当者研修(14名) ⑦定期運行管理者研修(32名) ⑧リスクアセスメント研修(14名) (3)フォーラム、会議等 ①安全・品質フォーラム(約60名参加) 年1回開催 (10月予定) 安全・品質の取組み(荷主・グループ・協力会社と共有) ②協力会社事故防止会議(約70名参加) 【内部監査の結果及び措置】 ・監査部門、安全部門による監査及び安全管理体制の評価、見直し、改善 ・重大事故等への再発防止策の徹底、関係法令及び規程・規則等の遵守 3. 事故に関する統計(2024年度) 自動車事故報告規則第2条に規定する事故「0件」 4. 輸送の安全に係る処分(2024年度) (輸送の安全確保命令、事業改善命令、自動車その他の輸送施設の使用停止処分、事業停止処分) 処分の内容： 無し 安全統括管理者 常務取締役企画本部長 西田 耕太郎 【2024年度実施結果】 ①人身事故(軽傷) 2件 ②物損事故 対前年比 -8% 【2024年度実施結果】 (1)社外施設での研修 ①自動車安全運転研修(71名) ②省エネ運転研修 (23名) ③運行管理者(補助者)専門研修(14名) ④整備管理者研修(7名) ⑤安全探求研修(28名) ⑥実地訓練研修(6名) (2)社内安全研修 ①初任運転者座学講習(2日間)(11名) ②自動車安全運転研修(特別編)(20名) ③フォークリフト研修(作業指揮者、オペレーター)(13名) ④駅構内安全作業教育者研修(29名) ⑤階段昇降機研修(スピージィ、大型)(22名) ⑥台車整備担当者研修(13名) ⑦定期運行管理者研修(26名) ⑧リスクアセスメント研修(12名) ⑨運行管理者試験事前研修(6名) ⑩フォークリフトオペレーター研修(特別編)(2名) ⑪安全運転専門職研修(10名) ⑫自動車安全運転実地研修(10名) ⑬駅構内安全作業実地訓練(11名) ※延べ334名 (3)フォーラム、会議等 ①安全・品質フォーラム(107名参加) ②協力会社事故防止会議(126名参加) ※延べ233名 【加害車両事故率】 6.6%(対前年比-0.2%) ※平均車両保有台数274台 ※公道における事故